

富山県立中央農業高等学校

令和4年度 学校総合評価

1 今年度の重点課題に対する総合評価

今年度は、「学習活動」「農業教育の充実」「学校生活」「寮生会活動の活性化」「進路支援」の5つの重点項目を掲げて学校アクションプランを設定した。

「学習活動」では、問題のレベルを上げたため目標には到達できなかったが、学習への取り組みがよくなった。また、タブレットを用いた授業は当たり前になりつつあることから評価は「B：ほぼ達成」とした。

「農業教育の充実」では、達成目標をクリアすることはできなかったが、日本農業技術検定合格に向けて学習意識が高くなったため評価は「C：現状維持」とした。

「学校生活」では、アンケートの実施やノーチャイムキャンペーン、集会等で意識向上に取り組み、意識の向上が見られたため、評価は「B：ほぼ達成」とした。

「寮生会活動の活性化」では、役員会および集会は、目標通り取り組めたが、自治組織である寮生会の自発的な開催ではなかったことから評価は「B：ほぼ達成」とした。

「進路支援」では、インターンシップの運営については、流れはスムーズであったが、夏期休業中に新型コロナの影響がないにもかかわらず、2学年での体験が例年より少なかった。進学では国立大学をはじめとして、結果に結びつけた生徒が例年より多かった。就職希望者は12月中に全員内定し、評価を「B：ほぼ達成」とした。

新型コロナウイルス感染症予防のため十分な活動ができなかったが、評価は全体的にほぼ達成することができた。

2 次年度へ向けての課題と方策

学校評議員からは、アクションプランを含め、学校教育目標に向かう本校教員の取り組みや本校の事業内容を数多くマスコミへ発信していることについて、好意的な評価と期待をいただいた。

しかし、近年、生徒数の減少が大きな課題となっているため、今後もスマート農業やSDGsを通して農業の魅力を校外や中学生に発信していくとともに、生徒の育成については、各機関や保護者との連携はもとより、取組の方法論や目標設定のあり方についても十分検討することで生徒の一層の成長を図っていきたい。そのためには、領域や重点課題の内容に関わらず、目標の達成には全教員による重点課題の共有、取組への意欲と工夫が不可欠である。

今後も生徒の実態に応じた改善をし続けながら、農業の活性化と充実発展、担い手の輩出、地域社会の持続的な発展に貢献できる職業人の育成という本校の使命を果たすため、教育活動の一層の充実を図ってまいりたい。

3 学校アクションプラン

令和4年度 中央農業高等学校アクションプラン - 1 -		
重点項目	学習活動	
重点課題	学習習慣の確立と学習意欲の向上	タブレットを活用した授業の取り組み
現 状	<p>学びの基礎力診断テストを実施し3年目となった。可視化されたポイント獲得、自学自習ノートが生徒たちの学習意欲の向上・自信につながり始めてきている。</p> <p>しかし、生徒たちの学力差も大きく、基礎学力の確実な獲得には、より生徒の実態に応じた指導が大切であると考え</p>	<p>昨年度、生徒、教員にタブレットが貸与され、多くの授業でタブレットが活用されている。中学校でもオンライン授業等が実施されていたため、生徒たちは抵抗なくタブレットを用いた授業に取り組むことができている。</p> <p>しかし、タブレットを正しく使用できていない生徒もいるため、丁寧に操作等を指導する必要がある。</p>
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・躍進賞獲得（2回目が20点以上成績がアップした）・・・学年30%以上 ・優秀賞獲得（ポイント30点以上）・・・学年50%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレットを適切に活用ができる・・・100%
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・ポイント制の継続 課題の提出状況、得点の伸長状況、自学自主の取り組み状況によりポイントを付与し、可視化する。 ・自学自習の取り組み 自学自習ノートの配布 ・学び直しの科目「中農チャレンジ」の見直し 	<ul style="list-style-type: none"> ・学期毎にアンケートを実施し、理解できていない生徒には、研修会を行ったり、授業中に重点的に指導したりする。 ・必要に応じ、「農業と情報」の授業と連携をとりながら指導していく。
達成度	<ul style="list-style-type: none"> ・躍進賞獲得 1年・・・12.5%（5/40名） 1年は46名在籍であるが、2回とも受験した生徒は40名であった。 2年・・・26.4%（9/34名） 2年は37名在籍であるが、2回とも受験した生徒は34名であった。 3年は4月1回のみとなるため対象外 ・優秀賞獲得予定（2月2日現在） 1年・・・21.7%（10名） 2年・・・21.6%（8名） 3年・・・7.3%（3名） <p>優秀賞については、学年末考査が行われる2月末までが対象となるため、現時点で受賞が確定しているのは上記の通りである。30点に近い生徒が多くいるため、引き続き学年末考査に向けて呼びかけを行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中にタブレットを活用することができた生徒・・・100% ・休憩時間や放課後にタブレットを活用していた生徒・・・77.3% ・タブレット活用のルール厳守について守れている・・・52.5% だいたい守れている・・・44.1% 守れていない・・・3.4%

重点課題	学習習慣の確立と学習意欲の向上		タブレットを活用した授業の取り組み	
具体的な 取り組み 状況	4月上旬 5月下旬 6月 7月 9月 10月 11月 12月 3月	One-Week トライアル回収・返却 第1回学びの基礎力診断テスト 自学自習ノートの配布、勉強法の説明 結果到着 担任より生徒面談によるフィードバックやり直し学習実施の促進 課題： One-Week トライアル配布 One-Week トライアル回収・返却 第2回学びの基礎力診断テスト (1・2年のみ実施) 結果到着 担任より生徒面談によるフィードバック 学習の見直し 表彰	4月 5月 7月 8月下旬 10月 1月	タブレット活用ガイダンス タブレットを持ち帰り、各家庭でのインターネット接続テスト 夏季休業中のタブレット活用ガイダンス タブレット活用ルールの見直し 新ルールの運用開始 アンケートの実施
評 価	B	<p>【学習習慣の確立と学習意欲の向上】 昨年度に比べて躍進賞の受賞者が減っている。原因として、今年度は問題のレベルを上げていることが考えられる。20点の成績アップにはつながらなかったものの、1年生は24名(40名中)、2年生は21名(34名中)の成績向上者がいた。優秀賞については、最終的に確定するのは2月末となるため途中経過である。あと一步で30点に到達する生徒が多くいるため、引き続き自学自習を促したい。中には141点を獲得している生徒もいた。</p> <p>【タブレット活用した授業の取り組み】 大半が授業でのタブレットの必要性を感じており、タブレットを用いた授業は当たり前になりつつある。また、ほとんどの生徒がルールを意識して活用することができている。</p>		
〈評価基準〉 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった				
学校評議員の意見	<p>【学習習慣の確立と学習意欲の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> 到達目標に達成しなくても、簡単に解ける問題だけでなく難しい問題に挑戦させることも大事である。 躍進賞20点以上アップは難しいのではないかと。20%以上アップなどそれぞれのがんばりを認めてあげる方法もあるのではないかと。 <p>【タブレットを活用した授業の取り組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> 今後もどんどんタブレットを活用できるようにしてほしい。 			
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> 基礎学力習得のための学びの基礎力診断テスト活用法について 成績上位生徒の学力の向上について タブレットを有効的に活用した授業の取り組みについて 			

令和4年度 中央農業高等学校アクションプラン - 2 -

重点項目	農業教育の充実（個々の能力を最大限に伸ばす）	
重点課題	「資格取得と客観的評価」と「アグリマイスター顕彰制度の活用」	
現 状	昨年、資格習得に対する具体的な目標を示したが、指導体制や各職員、各学年の資格習得に対する意識が統一されていなかった。このことにより、日頃の農業教育による学習効果が十分に発揮されていなかった。	
達成目標	(1) 1学年「日本農業技術検定3級合格」学年取得率 20%以上 2学年「日本農業技術検定3級合格」学年取得率 30%以上 3学年「日本農業技術検定3級合格」学年取得率 40%以上 「同上2級」 学年合格者 3名以上 (2) 生徒が1年間で1つ以上の検定合格や資格を取得する。取得割合60% (3) アグリマイスター顕彰制度 による認定者数 プラチナ3名、ゴールド3名、シルバー3名以上 (4) とやま高校生マイスター認定者の輩出	
方 策	<ul style="list-style-type: none"> 各種検定の実施日、補習日程については保護者・生徒に連絡する。 各種検定の指導体制については事前に農業科会議等で検討する。 各種検定取得のメリットを理解させ、より多くの検定受検に挑戦するようにクラス担任、生徒に意識的に働きかける。 	
達成度	(1) 日本農業技術検定3級合格 1年 5名、2年 8名、3年 11名 (11%) (22%) (27%) 日本農業技術検定2級合格 3年 1名 (2) 1年 80.4%、2年 43.2%、3年 53.6% 全学年 60.4% (3) ゴールド1名、シルバー2名 (4) 認定者1名	
具体的な取り組み状況	4月当初に日本農業技術検定担当者を決め、補習計画を綿密に作成し実行しました。ただ、放課後補習に際しては学校行事や部活動の指導により教員の対応が困難な面が散見されました。そのような場合には、授業内で対策プリント学習を取り入れるなどの工夫をしていただきました。また、来年度以降に資格習得のための学習時間を朝学習、寮の学習時間の中で実施することや、特定の授業の中で計画的に取り入れることなど、様々な課題がありますが引き続き検討したいと思います。	
評 価	C	結果的には達成目標をクリアすることはできなかったが、日本農業技術検定合格に向けて学習意識が高くなった。
〈評価基準〉 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった		
学校評議員の意見	評価方法について、数値目標だけでは評価しづらい場合、達成目標別にランク付けし総合評価をされたらどうか。	
次年度へ向けての課題	課題研究や寮の学習時間、朝学習、中チャの時間内で取り組むなど資格習得ための時間を確保する必要がある。	

重点項目	学校生活（校則の遵守と交通事故の防止）	
重点課題	<ul style="list-style-type: none"> ・信頼される中農生として、学校生活3か条「挨拶をする、服装を正す、時間を守る」を意識できる。（時間の管理） ・登下校時において交通事故の危険を回避することができる。（命の尊さを考える） ・民法改正による18歳成人引き下げに伴い、生徒自らが自己の行動に責任を持つことができる。（自己責任） 	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・学校生活3か条は、過去の取り組みから、年々意識向上している。今年度もこれらを定着させるために、粘り強い指導を継続する。 ・交通安全への意識は十分とはいえないため、継続的に指導する。 	
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・「信頼される中農生」への意識向上 ・登校時のあいさつ運動 ・時間管理がしっかりできる [達成目標]：生徒へのアンケートにおいて達成できた90%以上	<ul style="list-style-type: none"> ・自転車、歩行による交通安全意識の向上 [達成目標]：交通ルールを守る意識 事故件数 ゼロ
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケートの実施 ・各学期の始業式と終業式および、大型連休前に校則の遵守指導を実施 ・生徒会執行部と希望者による平日8:00～8:20に寮から本館の渡り廊下付近にて「あいさつ運動」を通年実施 ・生徒会執行部を中心に時間管理の啓蒙活動を実施。 ・HR会長、風紀委員を中心に生徒への呼びかけを実施。 ・さわやか運動における福沢小学校との連携。 	<ul style="list-style-type: none"> ・交通安全教室において意識調査の実施 ・全体への指導：各学期の始業式と終業式および大型連休前に交通安全指導を実施する ・交通安全街頭指導の継続（中農坂～福沢地内） ・校地内（中農坂～T字路まで）の自転車運転の禁止と安全点検の徹底
具体的な取り組み状況	「信頼される中農生」意識向上（時間の管理）（自己責任） <ul style="list-style-type: none"> ・アンケートを実施し意識を高めた。 ・ノーチャイムキャンペーンの実施 ・集会等での意識向上の啓蒙 交通事故の危険回避（命の尊さを考える） <ul style="list-style-type: none"> ・交通安全教室の実施、集会等で交通安全の啓蒙、通学生への指導 	
評 価	B	<ul style="list-style-type: none"> ・時間を守る意識向上は高まった。 ・あいさつ運動は、継続的かつ自発的に行われていた。
〈評価基準〉 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった		
学校評議員の意見	18歳成人について、生徒の意識変化はあるか。	
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・成人年齢の引き下げにより、在学中に成人する生徒が出てくる中、自己責任についての自覚を今年度以上に啓蒙していく必要がある。 ・「交通安全意識」（命の尊さの自覚）について、通年の指導に加え生徒会執行部が中心となり企画・提案していくよう指導する。 ・「時間管理」について継続して指導する。 	

重点項目	寮生会活動の活性化について	
重点課題	寮生会が主体となって、寮生の安心と安全を保障し、且つ充実した生活を送れるような、寮運営を進めていきたい。そのための意識の涵養を目指すものである。	
現 状	<p>現在、寮生会の諸活動および、寮内のルールは、主に教員が中心となって計画・運用されている。寮生の自治組織である寮生会が主体となって、行事の計画、立案及び運営していく体制を整えるとともに、自らルールを設定し、全寮生へ周知、徹底を図ることを目標とした、寮生会運営を望むところである。以上のことから、下記の通り、対策を講じていきたい。</p> <p>対策1 『寮生会役員会について』</p> <p>定期的な役員会を設定し、諸行事と規則についての話し合いの場を設ける。話し合われた内容をまとめ、寮生への周知の仕方等について検討させる。</p> <p>対策2 『寮生集会について』</p> <p>学期に1度程度の集会を設け、役員会で諮った内容を周知させるとともに、組織的な運営の仕方について、学ぶ機会とする。</p>	
達成目標	<p>①月1回の寮生会役員会の実施と学期に1回の寮生集会を実施できる。</p> <p>②寮生が主体となって行事等を企画、立案、運営することができる。</p>	
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・寮生会顧問および寮務部職員が中心となって指導し、活動を具体化させる。 ・寮生全員が協力し、寮運営が進められるよう奮起を促す。 	
達 成 度	<p>①月1回、学期1回の役員会、寮生集会が開催できた。</p> <p>②納涼祭、寮祭等の企画、立案、運営が寮生主体の下、実施できた。</p>	
具体的な取り組み状況	<p>寮生会役員会の取り組みは、寮生諸行事の企画、立案、運営に関する内容であり、寮生による主体的な行事の運営に一定の成果があった。</p> <p>学期に1回の寮生集会は、実施できたが、内容が寮生活についてのルールやマナーに関する注意喚起が主であり、寮生会運営に関するものが実施できなかった。</p>	
評 価	B	役員会および集会は、目標通り取り組めたが、教職員による働きかけによる開催がほとんどであった。生徒役員が自発的に開催する雰囲気づくりや、自治組織である寮生会が、自ら寮風を高めていこうとする意識づけが今後の課題であるとする。
(評価基準) A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった		
学校評議員の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒からのルールに関する要望がないのは、生活に満足している証拠ではないか。 ・コロナ禍のなか、寮祭や納涼祭が開催できたことはなによりだ。 	
次年度へ向けての課題	<p>自治組織である寮生会が、自ら規則を考え、ルールを守るための雰囲気づくりを作り上げるための取り組みに工夫をしたい。</p> <p>寮生会役員が、リーダーとして寮風を高めていくための支援指導をさらに進めていきたい。</p>	

重点項目	進路支援				
重点課題	進路先の確保、インターンシップ体験率の向上				
現 状	<p>本校は農業をはじめ多様な分野へ就職または進学をしている。そのため生徒自身が各自の適性を理解するとともに進路意識を高めることによる適切な進路決定を目指し、主として2年生の夏季休業中にインターンシップを実施している。未体験者についてはその後の長期休業中での実施を勧めているが、3年生での実施は難しい場合が多いため、できるだけ2年生で体験することが望ましい。</p> <p>また昨年度に引き続き、新型コロナウイルスの感染拡大が就職求人等に及ぼす影響は不鮮明である。</p> <p>・ 過去3年間のインターンシップ実施状況 (※数字は各年度2月調査のもの、分母は在籍数)</p>				
	第2学年までの体験者数	R元年度 33/48人 (69%)	R2年度 46/57人 (81%)	R3年度 34/41人 (82%)	R4年度 24/37人 (65%)
	↓	↓	↓	↓	
	第3学年までの体験者数	R2年度 38/47人 (81%)	R3年度 38/47人 (81%)	R4年度 34/41人 (82%)	
達成目標	3年生の進路先決定率100%、2年生のインターンシップ体験率90%以上				
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒が就職を希望している企業等への訪問を早期（5月頃）に行う。 ・ 進学希望者の個別受験指導について早めに計画を進めていく。 ・ インターンシップについては、各生徒の担当者を明確にし、積極的に体験できるようにはたらきかける。 				
達成度	(2月6日現在) 3年生の進路先決定率100%、2年生のインターンシップ体験率65.0%				
具体的な取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 昨年度の3年生の就職先及び今年度の3年生の就職希望企業への企業訪問を、5月下旬から6月上旬にかけて行った。 ・ 進学希望者（特に大学・短大）の個別受験指導については、3学年・進路指導部以外の先生方にも協力を依頼し、8月中に担当者を決定した。 ・ インターンシップの運営について昨年度見直しを行い、流れはスムーズであった。しかし夏期休業中に新型コロナの影響がないにもかかわらず、2学年での体験が例年より少なかった。 				
評 価	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ 進学では国立大学をはじめとして、高い目標をもって取り組み、結果に結びつけた生徒が例年より多かったことが特徴的である。 ・ 就職希望者は12月中に全員内定した。 			
〈評価基準〉 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった					
学校評議員の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・ インターンシップの位置づけは大変重要だ。インターンシップ中に教員の巡回に加えて、保護者の見学を入れたらどうか。 				
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今年度同様に、就農希望者研修会は、3年生だけではなく1, 2年生の生徒・保護者にも案内し参加をよびかける。また、農場部・専攻科（県農教振）と連携し、担い手候補生徒について研修等の呼びかけを行い、育成する。 ・ 1年次から職業意識を高め、インターンシップ体験率を向上させる。 				